

燦々

SANSAN
光り輝く



特集 JAとまこまい広域野球部
タイブレークの熱戦制し、胆振地区優勝を果たす

大詰めを迎えた春小麦の収穫。(厚真町)

JAとまこまい広域広報誌
燦々光り輝く
No.272



編集・発行

〒059-1693
JAとまこまい広域本所
TEL 0145-272241 FAX 0145-273941
北海道勇払郡厚真町錦町10番地2

令和7年8月10日
ホームページアドレス
http://www.ja-tomakomai.co.jp
メールアドレス
info@ja-tomakomai.co.jp

印刷 株式会社須田製版

休日に丁寧に作りたい、栄養たっぷりごほうびレシピ

調理時間
60分

JAさがみどり地区女性部
(佐賀県)が作りました！

爽やかソース香る ミカン風味の ローストポーク

しっとり柔らかなポークに、
ミカンソースがアクセント♪
パーティーの一品にも！



材料（4人前）

- 豚かたまり肉 200g
- ミカンスライス 適量

A

- ミカン果汁 50ml
- 酒 25ml
- みりん 25ml
- しょうゆ 25ml

- 01 豚肉にフォークで数か所穴をあけ、たこ糸で巻き、形を整える。
- 02 ①をAに1時間ほど漬けておく。つけ汁は取っておく。
- 03 耐熱容器に豚肉を置き、レンジでラップをせずに600ワットで6分加熱する。ひっくり返してさらに3分加熱する。
- 04 フライパンにつけ汁、③の豚肉を入れ、中火で煮詰める。スライスしたミカンを加えて30秒ほどしたら火を止める。
- 05 豚肉を食べやすい薄さに切り、器にミカンスライスと盛る。仕上げに煮汁を回しかける。



ワンポイント！

レンジで加熱するときは、ラップをしないことがポイントです！レンジから取り出す際、やけどしないように注意しましょう。

爆

SANSAN
光り輝く

No.272 CONTENTS

- 01 特集 JAとまこまい広域野球部
タイブレークの熱戦制し、
胆振地区優勝を果たす
- 03 カメラレポート
- 07 【穂別】JAとまこまい広域青年部穂別支部、
王座奪還に成功
第42回むかわ町穂別流送まつり開催
- 08 追分・早来の青年部と女性部がまつりを盛り上げる
第17回あびら夏!うまかまつり開催
- 09 ・理事会報告
・下水汚泥資源の肥料利用について検討
- 10 期待の農力 藤樫健人さん
- 11 ワンポイント営農情報
- 12 あぐり講座
- 13 JAからのお知らせ
- 14 JAとまこまい広域
クミカン帳票のデジタル化を開始します

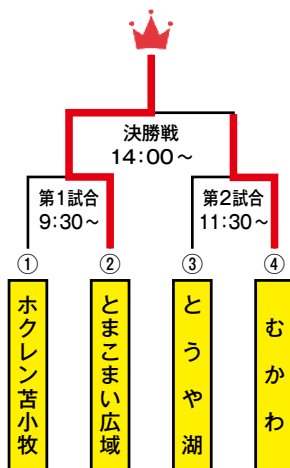
裏表紙 休日に丁寧に作りたい、栄養たっぷりごほうびレシピ



大詰めを迎えた春小麦の収穫。(厚真町)



▲ハイタッチをする新岡選手(手前)と本塁打を放ち笑顔を見せる森山選手(奥)



▲リリーフ登板した新加入・三浦選手
ショートでの好守に加え大活躍

ホクレン苦小牧支所との初戦

	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	合計
JAとまこまい広域	0	0	0	0	4	0	0	4
ホクレン苦小牧支所	0	0	1	0	0	0	0	1

JAむかわとの決勝

	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	合計
JAむかわ	0	0	0	0	0	0	0	3	3
JAとまこまい広域	0	0	0	0	0	0	0	5X	5

JAむかわを5対3で破り、JAとまこまい広域が胆振地区優勝を飾った。最優秀選手賞には本田健悟選手、敢闘賞に新岡駿斗選手、打撃賞に森山夕生選手が選ばれた。ベンチからチームを鼓舞した逢坂選手や選手をサポートしチームを支え続けた三谷・赤平マネージャー、応援に駆けつけた多くの役職員の方々など、文字通り総力戦を勝ち抜いた大会となった。

優勝した同JA野球部は、9月3日～4日に江別市で行われる全道JA野球大会へ出場する。

総力戦を終えて

見守る中、歓喜の瞬間は訪れた。相手投手の甘く入った球を見逃さず会心の一振り。ライトスタンドボール際に吸い込まれた一発は、代走の高橋選手手を帰す逆転のサヨナラ3ランとなった。

JAとまこまい広域野球部 タイブレークの熱戦制し、 胆振地区優勝を果たす

▲優勝したJAとまこまい広域野球部員たち

ホクレン苦小牧支所との初戦

むかわ町の田浦球場にて7月5日、第64回胆振管内JA野球大会が開催。JAとまこまい広域野球部が1年ぶり8度目の優勝を飾った。過去に全道大会準優勝の実績を持つ同チームが新戦力との融合を図り、再び全道大会の舞台へと挑戦する一歩となる。昨年敗退した雪辱を晴らす大会でもあった。

決勝 対 JAむかわ

決勝の相手は第2試合でJAとみや湖を下した昨年の優勝チームJAむかわ。JAとまこまい広域にとっては前回大会5対14でコールド負けを喫した相手との因縁の対決となった。

初戦と同様、投手戦となった決勝戦。先発の本田投手が気持ちのこもった熱い投球をみせ、広い守備範囲で外野を死守した中塚選手、サード新岡選手の巧みな守備により相手打線を封殺スコアボードには、0が並んだ。打撃ではライトでスタメン出場した新加入・細川選手が痛烈な打球を放つも相手の好守に阻まれるなど、1点が遠い展開に。7回までに試合が決まらず延長へ突入、タイブレーク(ノーアウト2・3塁から開始)により勝敗を決することとなる。8回の表JAむかわの攻撃では、味方のエラーなどが重なり3点を失う。その後もピンチが続くも主将の佐々木捕手を中心に守り抜き、攻撃に望みをつなげた。すべてが懸かる8回の裏、JAとまこまい広域の攻撃が始まる。相手のミスから2点を奪取し、なおも2・3塁。ここまで完投を続ける本田選手が打席へ立つ。野球部監督を務め主力選手として長年チームを盛り上げてきた本田選手の打席を全員が

JAとまこまい広域の先発は畠山投手。立ち上がりから両投手の好投で緊迫した展開が続く。鉄壁の二遊間は南部選手と三浦選手、ファースト早坂選手が軽快なフィールディングを披露するなど守備陣が奮闘した。千葉選手が快足を活かし内野安打を放つなど随所でチャンスを作るものの、均衡を打ち破るには至らなかった。先制を許し迎えた5回表、ヒットとフォアボールで1・2塁となった場面、3番森山選手がライトスタンドを越える鮮やかな3ランを放ち逆転、試合を決定づけた。7回裏にはチームの黄金期を支えた黒畑選手がライトに入り4対1で逃げ切り初戦を締めた。

広域

JAとまごまい広域 移動理事会開催
北海道電力(株)が取り組む
脱炭素化を視察

JAとまごまい広域は7月16日、移動理事会を開催。厚真町の本所で会議後、同町厚真の北海道電力(株)の苫東厚真発電所を訪れ、火力発電施設や水素製造設備を視察した。

同社は2050年カーボンニュートラル実現を掲げ、火力発電に伴う炭素排出量の削減を目指し、水素やアンモニアを活用した発電技術実用化に取り組んでいる。苫東厚真発電所4号機では、火力発電の燃料を従来の石炭からアンモニアへの一部転換を2030年運用開始予定



▲発電所内を見学する様子



▲水素製造設備を見学する様子

だ。また、水素の製造施設を見学し、水を電気分解し水素を生み出す設備を視察。他企業や自治体と連携し、水素の供給・普及を含めた脱炭素社会の実現に向けた取り組みに理解を深めた。

参加した理事からは「アンモニアを海外からの輸入だけではなく、国内でまかなうことはできないのか」と質問が挙がるなど、同社の取り組みに対し終始熱心に耳を傾けていた。

苫小牧

女性部苫小牧支部・スマイルレディ
ナチュの森で製作研修

モノづくり・コトづくり体験と会員の交流

JAとまごまい広域女性部苫小牧支部は6月30日(月)、白老町虎杖浜にあるナチュの森で製作体験研修を開催した。ナチュの森は廃校になった虎杖中学校を化粧品工場にリノベーションして誕生した「森の工舎」。自然の恵みを生かした庭園からなる美と健康の複合施設である。当日はあいにくの雨ながらも部員9名が参加し、アロマミスト作りとアクアドーム作りの2種の体験を行った。



▲アロマミスト作りを教わる部員

アロマミスト作りは10種の天然アロマから定められた分量を調合し、香りを作り上げる。部員たちは自分の好みの香りに近づけるべく、アロマの組み合わせを吟味していた。選択したアロマが分かるようにラベルを貼りつけ、商品のよう



▲集合写真

完成度に仕上がった。

アクアドーム作りにおいてはパーツの組み合わせやラメの色、分量などが選べ、自分だけのアクアドームができあがる。作業に苦戦しながらも完成したアクアドームは部員の特徴が出るものになった。体験終了後は白老町の恵みを生かした薬膳料理を楽しみながら、今後の活動について話し合ったり、近況の報告をした。部員同士の交流を深めた。

部員からは「自分達でアロマミストを作る体験は面白かった。仕事の息抜きに自分でつくったアロマを使おうと思う。遊具や広場などの施設もあるので、子供をつれてまた来てみたい」との声があった。

穂別

今年も多くの来場者でにぎわった
まるごとほべつフェア開催

6月27日～6月29日の3日間、新さっぽろアークシティの「サンピアザ光の広場」特設会場にて、イオン新さっぽろ店主催の「まるごとほべつフェア」が開催され、JAとまごまい広域穂別支所が出店した。

今年で21年目を迎えたこのイベントへの参加は、穂別地区の特産品PRを目的に始まり、毎年多くの来場者でにぎわっている。

混雑を避けるためにサンプル商品をお客さんに見ていただき、注文を受けてか



▲旬のほべつメロンが並ぶ



▲にぎわいを見せる会場内

ら産地直送という形で販売される。「ほべつメロン」「ほべつカンロ」「ともりん」、山わさび、長芋、小松菜、ほうれん草といった同地区の特産品が陳列され、家族連れなどで終始にぎわっていた。

3日間で去年を上回る総額360万円を販売した。

最後に農協担当者は「一大イベントとして定着しているため、リピーターも多く、消費者は毎年このイベントを楽しみにしている。期待に応えられるよう、これからも継続していきたい」と話した。

追分

～天候に恵まれた1日～

JAとまごまい広域青年部追分支部 メロン・カンロ即売会

7月12日、JAとまごまい広域追分支部駐車場にて同JA青年部追分支部による「メロン・カンロ即売会」が開催された。同即売会は地場産の農産物を通じて地域住民との交流を深める事を目的として開催しており、地域住民に人気の高いイベントとなっている。

開催当日は天候に恵まれ、販売開始前から開店を待つ来場者の行列が出来ていた。今回は追分特産品の「アサヒメロン」「カンロ」を合わせて87箱を用意。

橋本祥彰支部長は「今年は昨年に引き続き無事天候にも恵まれ、即売会日和になったことを大変嬉しく思う。一致団結し完売目指して頑張りましょう」と挨拶。定刻になり橋本支部長の合図と共に販



▲アサヒメロン



▲開店を待つ来場者



早来

女性部早来支部 日帰り研修開催

農繁期に束の間のリフレッシュ

7月15日（火）、JAとまこまい広域女性部早来支部は日帰り研修を実施し、部員10名で北広島市にある「ホクレンくるの杜」と「エスコンフィールド北海道」を訪れた。

当日は、晴天にも恵まれ、くるの杜では道内各地の農産物加工品や近郊JAの野菜、肉、酒、乳製品などを取り扱っている農畜産物直売所を視察した。参加した部員は「販売物の豊富さに驚いた。加工品の知識を得る事ができた」と話していた。昼食は、併設している農村レストランでビュッフェ形式の新鮮な野菜や肉を使用した料理を堪能した。



▲ホクレンくるの杜にて集合写真



▲ファイターズガールの説明を聞く部員達

午後からは、エスコンフィールド北海道でスタジアムツアーを体験した。このツアーは、ファイターズガール解説のもと、通常入場できないグラウンドやベンチ内、専用のVIPゲートから入るダイヤモンドクラブシートや記者会見エリアなどを見学することができる。約50分間のツアーに参加した部員は「普段入場できない場所を選手と同じ目線で体験し、写真も沢山撮影でき良い思い出となった」と語っていた。帰りのバスは農繁期に束の間の再会を楽しみ賑やかな声に包まれ、同研修は終了した。

厚真

JAとまこまい広域女性部厚真支部加工部

“おふくろみそ”の天地替え実施

JAとまこまい広域女性部厚真支部加工部は7月15日、本所のある厚真町のみそ加工施設にて、同JAのオリジナル商品「おふくろみそ」の天地替え作業を行った。今回実施したのは令和6年12月と7年1月に仕込んだ129樽で、出来上がった商品はAコープ厚真店や苫小牧市内のホクレンショップで11月頃販売予定だ。

天地替え作業は、熟成過程にある味噌を別の樽へ移し、上下を入れ替えるようにして行う。攪拌し全体を空気に触れさせ

ることで、こうじ菌や酵母の働きが活性化し発酵・熟成を促進、風味豊かな味噌に仕上がる。また、原料には厚真産の米「ななつぼし」と大豆「ユキホマレ」を使用。大豆を蒸す過程から米麹づくり、バック詰めに至るまでは手作業で行う。

佐藤美奈子部長は「天地替え時のみその感触も良く、ちょうどいい具合に熟成が進んでいると感じる。出来上がりの味をお客様に喜んでもらえたらうれしい」と語り、完成を待ち望んでいた。



▲作業の様子



追分

追分アサヒメロン組合

女性だけのアサヒメロン圃場巡回

6月24日、JAとまこまい広域管内の追分アサヒメロン組合（安井貴志組合長）は、「追分アサヒメロンに携わる女性だけの圃場巡回」を実施した。

当日は晴天に恵まれ12名の女性が集まった。安井貴志組合長は「収穫時期に入ると地域の交流の時間が取れないこと、また同じ作物を栽培する中で、どのような工夫をされているかなどの意見交換が出来れば嬉しい。また生育調査を通じて少しでもリフレッシュしてくれたら」と話してくれた。計6力所の圃場を



▲生育調査の様子



▲集合写真

視察し、メロンの生育調査・意見交換会を行い半日で終えた。参加者は「出荷時期はバタバタしており顔を合わせる機会も少なかったが、今回の取り組みで地域との交流を深める事が出来た。またいろいろな意見や考えがありとても勉強になった」と笑顔で話してくれた。メロンの生産現場においては、10月までと長い出荷になるが安心・安全で高品質なメロンを消費者に届け、今後更なる組合の発展に期待したい。

広域

青果物産地協議会開催

市場担当者と産地及び消費地の情勢を共有する

JAとまこまい広域は7月18日、苫小牧市の日胆農業会館で令和7年度青果物産地協議会を開催した。道内外の青果市場関係者と同JA生産部会より総勢52名が参加。同協議会は2年おきに開催され、産地と消費地の情勢を報告し意見交換を行う。

堀弘幸組合長のあいさつで開かれた同協議会は、ホクレン物流部物流一課よりドライバーの労働時間の規制強化に伴う業界の情勢や課題が報告されたほか、分科会ごと別の会議室に分かれて意見交換が行われた。



▲南瓜・長芋・ごぼう分科会で挨拶する石崎憲一郎会長（広域南瓜部会）



▲馬鈴しょ分科会の様子

馬鈴しょ分科会では、産地側JA担当より「7月中旬の生育調査では植付時期の遅れからやや小玉傾向が見受けられたが、昨年同様今後の天候次第で十分肥大が期待できる」と報告された。また、消費地情勢について市場担当者は「現時点では九州産の比較的安価な馬鈴薯が多く出回っている。以降、北海道産がピークを迎える際には値段が上振れ、安定した供給ができれば」と述べた。生産者と市場、JAが一堂に会し、互いに意見を述べ理解を深めることで、今後も連携を取りながら販売力強化へ向かう意思確認をする会議となった。

追分・早来の青年部と女性部がまつりを盛り上げる 第17回 あびら夏！うまかまつり開催

さわやかな薫風を感じ始めた7月。胆振管内安平町ときわ公園で「あびら夏！うまかまつり」が5日(土)・6日(日)の2日間に渡り開催され、JAとまこまい広域が参加した。

同まつりは今年で第17回目となり、2009年から行われている安平町の一大会。地元の美味(うま)い物・巧(うまい)芸能・馬(うま)産地、3つの「うま」を融合した、安平町の特産がぎゅっと詰まったお祭りで、町内外の方にも恒例行事として定着している。

今年も、同JA青年部追分・早来両支部主催による「アサヒメロン早食い競争」や北海道大学「縁」による「YOSAKOIソーラン演舞」など数多くのイベントが行われた。また農畜産物販売では、JAとまこまい広域味付ラムジンギスカン、青年部追分支部によるアサヒメロン2玉入り限定販売など、販売開始前から商品を求めるお客様の長蛇の列が出来ていた。同支部主催アサヒメロン販売では、例年より「アサヒメロンを地方発送したい」との声が多かったことから、今回初の試みとなるゆうパック受付を実施し友人や知人に地方発送するお客様も多く見受けられた。会場内には、「味付ラムジンギスカン焼肉コーナー」が設けられ、女性部早来支部によるたんとう米を使用したおにぎりと一緒に味わう姿



▲味付ラムジンギスカンの販売



▲早来女性部によるおにぎり販売

が見られた。

5日(土)の夜には、近隣都市から多くの来場者が訪れる人気の「花火大会」が行われた。

約1,200発の花火が盛大に打ち上げられ、安平の夜空を彩り観る人の心に深く残る花火大会となった。2日目の本祭ではお笑い芸人「響」のコントや「アイデンティティ」のものまね漫才が行われ、メインステージは大いに盛り上がり、大盛況の内に幕を閉じた。



▲開店を待つ来場者



▲高品質なアサヒメロン



▲大盛り上りのメロン早食いの様子

【穂別】JAとまこまい広域青年部穂別支部、王座奪還に成功 第42回むかわ町穂別流送まつり開催



丸太切り競技で奮闘した青年部穂別支部

JAとまこまい広域青年部穂別支部は7月19・20日の2日間、むかわ町穂別の穂別ふれあい公園をメイン会場に開催された第42回むかわ町穂別流送まつり(同実行委員会主催)に参加した。

同まつりの目玉イベントである全道人間流送競技は、かつて木材を搬出する手段として用いられていた原木流送をアレンジしたもので、人の背中を船頭が竹竿を巧みに操ってバランスを取りながら走りゴールまでの速さを競う競技。

これまで同支部は20回以上の優勝を経験し、王座に君臨していた。昨年度、惜しくも準優勝という形で優勝を逃し、地元の鶴川高校野球部に、その座を明け渡すこととなった。

今回、道路での開催となった20日の流送競技には、町内の高校生を含む3チームが参加。熾烈を極めることが予想されたが、JA青年部チームは、他の追従を許さない圧倒的な走りを見せ、1分57秒10という衝撃のタイムを叩き出した。その結果、2位と50秒近く差をつけて見事勝利し、王座奪還を果たした。

また、同日に開催された丸太切り競技においては、7チームがエントリー。JA青年部も出場し優勝を狙ったが、6位という結果に終わった。



白熱した流送競技



出店の射的は大繁盛

会場内では穂別特産の「ほべつメロン市」や北海道鶴川高等学校の生徒が企画したほべつカンロ「とりん」を加工したアイスの販売も行われた他、JA青年部の出店や花火大会、ステージイベントなど多彩なプログラムが盛り込まれ、先人たちの歩んだ歴史を継承しながら、穂別の魅力がぎゅっと詰め込まれたイベントとなり、町内外から訪れた多くの参加者たちを楽しませた。

最後に流送競技において船頭を務めた石崎真平さん(26歳)は「昨年悔しい思いをしたので、勝つことが出来てすごく嬉しい」と喜んだ。また、「農繁期のため夜しか集まる事が出来ないが、皆の心が一つになるように練習を繰り返した結果が実を結び、ホッとしている」と安堵の笑顔を見せた。



表彰式で喜びを爆発させる石崎監督



さんさんかがや「 期待の農力

祖父から孫へ



とうがし 藤 健人さん(22歳) 厚真町共和

実際に就農して

1年目を振り返り「特に力仕事が大変だった。肥料袋や農業のタンク

健人さんは「農家をやっていた祖父の後を継ぐ人がいなかったため、高校2年生の時に就農しようと思った」と卒業後すぐに農業の世界に飛び込んだ当時を振り返った。また就職先について悩んだ際には「機械ラインに従事する工場勤務は嫌だったが、農家はトラクターなどの機械を自分で整備したりすることもあり、自分の性格に合っていると思った」と、自身の性格が就農の後押しとなったと語ってくれた。

就農のきっかけ

平成15年7月22日、厚真町共和の藤樫家の長男として誕生する。北海道苫小牧工業高等学校を卒業後に就農、4年目を迎える。祖父の一男さんとともに小麦・大豆・小豆・馬鈴薯を約26ha作付けする。

やりがいについて

2年目に加入した青年部活動について健人さんは「青年部に入り先輩農業者との交流が増えた。事業後の打ち上げや反省会にも参加し、楽しませてもらっている」と語り、青年部加入が自身の農家としての幅を広げる機会となったと笑顔で教えてくれた。また、収穫の時期に育てた作物を収穫し、畑の様子が一変する光景を見るのもやりがいだという。

今後の目標について

「まずはすべての作業を一人でできるようにしたい」と語る健人さん。一通りの作業を経験した今、作業効率や質をより高めたいと意気込み労働時間や作業内容の管理を自分で行い、余裕を持ちたい」とその先の展望まで聞かせてくれた。

理事会報告

令和7年7月16日(水)に総合営農センターで第7回理事会が開催され、次の事項について報告、協議、承認がされました。



1. 一般報告と当面する諸行事について
2. 5月・6月末財務報告について
3. 7月1日現在の農作物生育状況報告について
4. 組合員の異動について
5. 固定資産の取得、処分について
6. 「固定資産・車輛確認」「支所の日」の開催結果について
7. 組合員訪問の実施結果について

8. 共済一斉推進結果について
9. 第2回生産委員会について
10. 第1回生産施設再編検討委員会(生産委員会諮問)について
11. 正組合員一戸複数加入推進要領について
12. 令和7年度生産調整実施計画について
13. 令和7年度米・大豆の出荷契約と8年度小麦の播種前契約について
14. 令和7年度家畜共進会・共励会の結果について



1. 手数料の改定について
2. 役員道外視察研修について



- 議案第1号 令和7年度米乾燥調製施設自主検定員の選任について
議案第2号 令和7年度麦乾燥調製施設自主検定員の選任について
議案第3号 令和7年度大豆乾燥調製施設自主検定員の選任について

- 議案第4号 生乳受託販売規定の一部変更について
議案第5号 出資の減口と譲渡について

下水汚泥資源の 肥料利用について 検討

6月27日、営農部クリーン農業係は苫小牧市の西町下水処理センターを視察した。

これは、苫小牧市上下水道部からの、同下水処理センターで発生する汚泥資源の農用再利用についての呼びかけによるもの。

JAではかねてより耕畜連携、資源循環を重点課題として取り組んでおり、堆肥のマッチングをはじめ、飼料作物の交換輪作の取り組みや稲わらの再利用等を進めている。

当日は同センターの畠山所長と今井主査が汚泥の処理工程を説明。下水処理の仕組みは、処理過程で発生した沈殿物を混ぜ、時間をかけて沈め濃縮。それを温めることにより消化ガスと分離し、残った汚泥を遠心分離機にて脱水し、農用利用が可能な脱水汚泥にしていく。

農用利用にあたってのハードルとなる成分値については、十分基準をクリアしているが、有害重金属であるカドミウム含有値が基準範囲内であるも比較的高いことから連用を避け、

反当たり1t程度が適しているとJAでは判断した。また、遠心脱水された汚泥の水分は少々高く、利用においては一時保管、熟成がある程度必要とされる。

これらの条件を差し引いても、定期的な厳しい成分調査が行われ、臭気に関してもほぼ無い状態であること、さらには圃場まで無料で輸送が可能ということで、肥料価格が高騰する中、有効成分を補える本材についての将来的な利用検討にあたっては大きな材料となった。

今後、利用に向けては内部協議を重ね、諸条件をクリアできると判断した段階で組合員への周知を図っていく計画である。

【汚泥堆肥の代表的成分について(R6平均値)】

全窒素~1.3% リン酸~1.2% カリウム~0.03%

※詳細についてのお問合せは営農部クリーン農業係まで。



視察の様子

さんさん あぐり講座

胆振農業改良普及センター東胆振支所

日常からの 衛生管理について

家畜の伝染性疾病の発生には、「家畜」、「病原菌」、「感染経路」の3つが要因となります。そのため、日常から良好な飼養環境で「健康な家畜」を育てること、「病原体」の排除、「感染経路」の遮断に取り組みましょう。

1 飼槽、水槽はきれいに保たれていますか？

こまめに清掃・洗浄をし、常に清潔な飼料・水を摂取できるようにしましょう。

飼槽・水槽を清潔に保つことで、病原菌の侵入防止だけではなく、採食量・飲水量の低下も防ぎます。

2 牛舎出入口の踏み消毒槽は交換していますか？

長靴で病原菌を持ち込まないため、畜舎の出入口に水だけを入れた水槽と消毒液を入れた水槽を2つ設置します。長靴に付着した糞や尿などの有機物は消毒液の効果を低下させるため、最初に水の入った槽でブラシなどを使い泥や糞尿を落としてから、消毒槽に入ります。水が汚れたらすぐに交換しましょう。

例) アンティックビルコン S の場合

→ 濃度は100倍、消毒液がひどく汚れたり、消毒液の色のピンクが薄れたら交換しましょう。

また、畜舎施設が多い場合や、従業員が多い場合には、畜舎ごとに「専用長靴」を設置し、履き替えるほうが洗浄・消毒より病原菌を侵入させない効果が期待できます。長靴の洗浄・消毒にかかる時間が無くなり作業効率が上がります。



3 牛舎の窓や扉の防獣・防鳥ネット等に破損箇所はありませんか？

鳥獣の侵入を防ぐためにも、牛舎の窓や扉の防獣・防鳥ネット等の破損状況を定期的に点検し、破損がある場合は、すみやかに修復や交換をしましょう。



ワンポイント営農情報

高温のため収穫が早まっております。
出荷前に必ず生産履歴の提出をお願いします！！

生産履歴は、消費者や納品先に「安心・安全」を届けるための証明書となることから、生産者や地域としての信頼を確保するため、生産履歴の記帳が求められています。

万が一農薬の適正使用違反が発見された場合、使用した生産者だけが罰則を受けるだけではなく、共選で混ざったロット全てが出荷停止命令や回収命令など厳しい罰則が与えられます。そのため、安心・安全の証明や問題の早期発見のために出荷前に必ず生産履歴の提出をお願いいたします。



毎年、作物ごとに何枚も
手書きで書くのは大変。

★生産履歴管理システム「apras」を活用し、

生産履歴をスマホやPCで提出してみよう！

生産者がWEBブラウザから履歴を作成、提出します。

- 生産者は帳票を直接提出する手間がなくなり、受け取り側の職員も帳票読み取り・修正の必要がなく作業効率化が図れます。
- 生産者が自身の提出履歴、農薬や肥料データ等が閲覧でき、作業日誌として活用いただけます。
- SSL通信を採用。ユーザーのパスワードは暗号化を行っております。



- スマホからの履歴記帳で、どこでも入力可能。
- 履歴の提出だけではなく、農薬使用基準も確認できる。

右記QRコードを読み取って、「apras」をダウンロードできます。
携帯のカメラ機能で読み取れます。

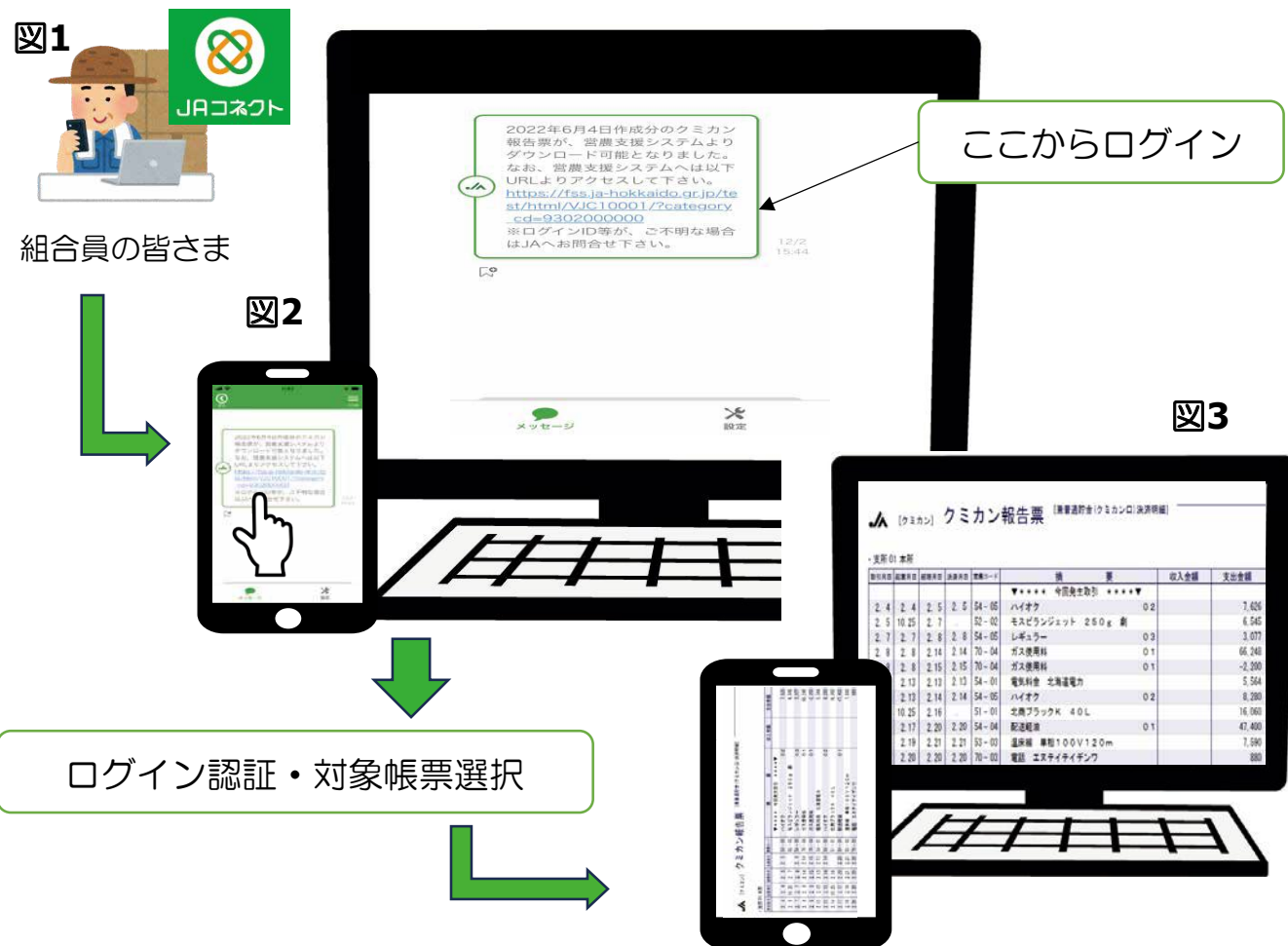


※ログイン方法・パスワードをお忘れの方、新規就農のためIDをお持ちでない方は、JAまでお問い合わせください。

JAとまこまい広域 クミカン帳票のデジタル化を開始します

平素より当組合をお引き立て頂きまして、誠にありがとうございます。
当組合では営農情報のデジタル化・ペーパーレス化の一環として、毎月送付
させて頂いているクミカン報告票及び、営農管理報告票を「JAコネクト」経由
で参照及びダウンロード可能とするサービスを開始致します。

デジタル化サービスのイメージ



- 図1.毎月初にクミカン帳票の作成が完了した旨のメッセージがJAコネクトに届きます。
図2.JAより別途案内のある「ID・パスワード」でシステムへログインし、参照する帳票
を選択します。組合員情報サービスをご利用している組合員さんは同じパスワード
でご利用になれます。
図3.クミカン帳票が画面表示され、参照及びダウンロード等が可能となります。

お問合せ先

JAとまこまい広域 各支所営農課まで

JA 日誌

2025 8月

16日(土)

17日(日)

18日(月)

19日(火) ホッカイドウ競馬協賛レース(門別競馬場)

20日(水) 水稲稈実調査(厚真支所)

21日(木) 第3回ALM委員会
第3回コンプライアンス委員会

22日(金) 厚真町戦没者追悼式

23日(土)

24日(日)

25日(月) 第7回企画会議
農業振興本部全体会議

26日(火) 第3回共済連運営委員会(札幌)
中堅層職員研修Ⅱ(第2回) ~ 27日

27日(水) 野球部全道大会出場壮行会

28日(木) 第2回管理委員会
第3回生産委員会

29日(金) 大卒採用試験 第3クール 第9回経営会議 予定
第34回北海道肉用牛共進会 いずみ・のぞみ幼稚園いも掘り体験(厚真)

30日(土) 准組合員イベント「秋のいも掘り体験」(厚真)

31日(日)

2025 9月

1日(月) 苫小牧消費者協会理事会
第2回定期監事監査 ~ 3日

2日(火)

3日(水) JA全道野球大会(江別) ~ 4日

4日(木) 年金友の会 組合長杯パークゴルフ大会

5日(金) JA防災の日
第9回理事会

6日(土) 厚真町胆振東部地震追悼式

7日(日)

8日(月)

9日(火)

10日(水)

11日(木) 日胆組合長会作況視察(4地区組合長会)
ホクレン肉牛市場

12日(金) ホクレン乳牛市場

13日(土)

14日(日)

15日(月) 敬老の日(祝)

鳥インフルエンザの防疫作業で表彰

JAとまこまい広域は厚真町総合福祉センターで7月3
日、高病原性鳥インフルエンザ防疫に係る感謝状贈呈式
に出席。石橋公昭専務が胆振総合振興局の牧野野局長よ
り、感謝状を贈呈された。昨年10月に厚真町内で発生し
た同感染症において、当JAは職員を派遣し、振興局や厚
真町らとともに防疫作
業を行った。石橋専務
は「このような名誉あ
る感謝状をいただき、
誠にありがとうございます。
管内の畜産業の
発展のため、家畜伝染
病対策を一層推進して
まいります」と謝辞を
述べた。



感謝状を贈呈された石橋専務と牧野局長

お悔やみ 謹んでご冥福をお祈りいたします。

月日	地区	氏名	享年
6/2/20	安平町	野尻 理恵さん	51
6/29	厚真町	金子 直光さん	83
7/4	厚真町	西村 政男さん	96
7/23	厚真町	奥井安太郎さん	90
7/24	安平町	伊藤 秀一さん	98

ホクレン南北海道黒毛和種市場 広域農協支所別取引成績(8月)

令和7年7月9日

	性別	成立頭数(頭)	価格平均(円)	平均日齢/体重(kg)	平均kg/単価(円)
白老	去勢	18	745,667	1.278	2,091
	雌	10	652,400	1.112	1,929
早来	去勢	22	744,545	1.195	2,112
	雌	16	614,625	1.017	1,883
厚真	去勢	23	703,696	1.246	1,948
	雌	7	660,143	1.148	1,900
穂別	去勢	14	744,429	1.239	2,154
	雌	10	622,900	1.102	1,953
追分	去勢	5	704,600	1.090	2,038
	雌	4	653,250	1.111	1,910
とまこまい 広域	去勢	82	730,878	1.227	2,063
	雌	47	634,489	1.081	1,912
胆振管内	去勢	159	729,591	1.195	2,083
	雌	104	616,654	1.061	1,886
市場計	去勢	818	705,121	1.166	2,073
	雌	687	584,971	1.016	1,864